

主体的な 学びを育む

■ 主体的な学びは魅力的な教材との出会いから

「歴史の授業は教師の説明が中心になりやすい」「生徒主体の授業づくりは難しい」「語句の暗記に陥りやすい」…こうした声を多くの先生から聞きます。学び舎教科書の執筆陣もみな、教員（元教員）です。同じような悩みの中から、生徒が目をは輝かせる教材を発掘し、主体的に学ぶ授業を追求してきました。そうした研究の蓄積から手ごたえのある教材を厳選し、検討を重ねて学び舎教科書は生まれました。

学び舎教科書は、「身をのりだして何か言いたくなる」「発見や疑問がたくさん出る」「思わず自分の身にひきつけて考えてしまう」、そのような生徒の関心を引き出す図版や記述で構成しています。歴史の人びととの新鮮な出会いによって、生徒が自ら感じ考える主体的な学びが始まります。

■ 新しい学習指導要領の方向に適合しています

2021年度から施行される新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」を掲げています。歴史のできごとを様々な視点から関連づけて考察・表現したり、意見交換や討論などにより考えを深めたりすることが大切とされています。こうした主体的な学習は、魅力的な教材との出会いから始まります。

「あるページを読んでいたら、次のページもめくってみたいくなる」学び舎教科書は、このような深い関心を引き出して、教室での対話的な学びを培います。

■ 高校の新しい科目「歴史総合」とスムーズに接続します

2022年度から、高校で、新設科目・歴史総合が必修となります。歴史総合は、日本史と世界史を分けず、日本と世界のつながりを関連づけた近現代史です。また、知識を詰め込むのではなく、生徒たちが調べたり議論したりすることを重視しています。暗記に頼った学習でなく、日本や世界の歴史に興味・関心を抱き、自ら学ぶ姿勢が重要となっています。

学び舎教科書は世界史を重視し、世界と日本のつながりの中で歴史を学習できるように構成しています。中学の歴史学習で育まれた主体的な学習は、高校の歴史総合とつながり、若い世代の豊かな歴史認識を培います。

章の扉ページには、
北極を中心とした地図を置き、
テーマに沿って世界各地のようすを
想像・予想できるような、
ビジュアルな写真を配置しています。

